

みんなの丸亀

編集・発行／丸亀市コミュニティ協議会連合会・丸亀市連合自治会
丸亀市大手町二丁目4番21号 TEL0877-24-8809

第2号 令和3年9月

城坤地区

城坤は別名「六郷の里」とも言い、北は瀬戸内海を臨み、西には南北を貫通する金倉川、中央部には海に注ぐ西汐入川が流れ、弥生期の遺跡や京極家ゆかりの中津万家園などが所在する歴史的にも由緒ある自然豊かな地域です。近年では大型店や医療機関の進出、幼、小、中、高の教育機関や野球場などスポーツ施設も建設され、生活環境の充実により宅地開発が進み、人口も急激に増加しています。「みんなで育てる城坤っ



ペンチづくり

子をスローガンに、「夏休み子ども教室」では地域住民挙げての体験学習を開催しています。また高齢者に優しい福祉のまちとして「高齢者移動支援サービス」や散歩コースに子供たちの手作りによるほっと一息つけるベンチの設置など、みんなに優しいまちづくりに取り組んでいます。



高齢者移動支援サービス「おでかけ便」出発式

みんなのコミュニティ

讃岐の古刹法勤寺が建立されるなど、古代からの優れた稲作文化によって繁栄してきた飯山南は、今日まで豊かな農村地帯を形成してきましたが、まちの中心部を買通する飯山バイパスも一部開通し、都市化へ向けた変貌期を迎えています。こうした中で昨年、道中用地移転に伴い、「コミュニティセンター」が新築整備され、まちづくりの顔、活動拠点施設が出来ました。施設の特徴は、いつでも、誰もが使える「ふれあい交流室」です。ここでは、いつでもカフェ、朝市・フリーマーケットやまちライブラリーのスタッフが、水・土曜日には当番で本の貸し借りや来室者の対応などを行い、みんなの居場所となっています。また、公園整備班では、毎月の会合やアンケート結果から「和み・活かす・守



地域に公園整備が計画されています(写真はイメージ)

飯山南地区

「3つのコンセプトをまとめて市へ提言を行い、基本計画づくりに活かしていただきます。」

一方、地域の高齢化率は33.4%と市平均より4.3ポイント高く、「助け合う地域福祉のまちづくり」は喫緊の課題です。対策の一つに、市の委託による高齢者等移動手段確保事業、二つ目として地域包括支援センターと社会福祉協議会の指導を得て、有償ボランティアによる「助け合いサービス事業」に取り組み、11月実施に向けて協議が進んでいます。

令和時代と期を一にして、法の郷第3次まちづくり計画「みんなで築こう 法の郷の明日を掲げて、一人の百歩より百人の一步」を基本理念に、地域の一大変革期に対処するため、広くまちづくりへの参加を呼び掛けていきます。

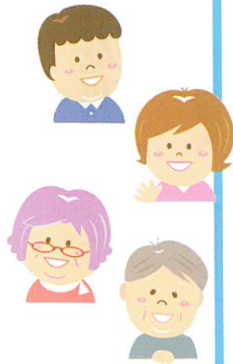


コミュニティセンターで親子のふれあい

令和3年度 コミュニティ協議会連合会・連合自治会総会

令和3年度コミュニティ協議会連合会・連合自治会総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面での決議となりました。6月30日、役員及び事務局が書面決議書の集計を行い、議案は全て可決されたことを確認しました。

議案及び表決の結果	
議案第1号 令和2年度事業報告	可決
議案第2号 令和2年度収支決算	可決
議案第3号 令和3年度事業計画	可決
議案第4号 令和3年度収支予算	可決
議案第5号 役員選任	可決



令和3年度事業計画

(主な行事・取り組み)

- ・コミュニティ・自治会長研修会(中止)
- ・合同防災訓練(1月16日)
- ・プロジェクト会議
- ・会報「みんなの丸亀」発行

(本会の目的達成のために推進、協力すること)

- ・自治会地区組織の強化等、地区連合自治会の育成及び加入促進
- ・コミュニティ事業の推進
- ・心ふれあう人権尊重、男女共同参画社会のまちづくりの推進
- ・市政の広報と市民の広聴の充実に協力
- ・市民福祉の増進活動に協力
- ・生涯学習事業の推進に協力
- ・環境美化、環境保全、リサイクル事業に協力
- ・交通安全対策の推進に協力
- ・防犯、薬物乱用対策、防火防災訓練に協力
- ・青少年健全育成運動に協力
- ・緑の都市づくり運動に協力
- ・健康づくり運動に協力
- ・明るい選挙の推進に協力

役員紹介

総会で選任された役員を紹介します。

任期：令和3年6月30日から令和5年度総会まで

- 会長 岩崎 正朔(川西地区)
副会長 進 和彦(飯山南地区)
玉井 弘一(城坤地区)
宮脇 隆(城西地区)
大谷 透(川西地区)
秦 佳子(飯山南地区)
連合自治会監事
玉井 豊夫(川西地区)
池内 右典(城坤地区)



(後列左から) 大谷、玉井(監事)池内、秦
(前列左から) 玉井(副会長)、岩崎、進、宮脇

この会報は赤い羽根共同募金の助成により作成しています。

合同防災訓練



避難スペース設営訓練

東日本大震災の発生から10年を迎えた令和3年3月11日、丸亀市自主防災会等連絡協議会との合同防災訓練を土器川体育センターで実施しました。

昨年度はコロナ禍により中止となったため、1年ぶりとなる訓練に各地区からあわせて約60人が参加しました。

訓練は、「感染症対策を取り入れた避難所の設営・受付」をテーマに実施しました。設営の訓練では、段ボールを素材とするパーティションやベッドなどを組み立て、ほかの避難者との距離をとった避難スペースの確保を実践しました。また、受付の訓練では、避難者の検温や体調確認、発熱者がいた場合の誘導の手順などを確認しました。

訓練終了後、神戸大学高等研究院海共生研



究アライアンス長の巽好幸さんを講師に招き、「世界一の地震・火山大国に暮らす覚悟」と題した防災講演会を行いました。

巽さんは、「世界一の変動帯に暮らす我々日本人は、プレート活動で生み出された地形の下で育まれた自然の恵みを受け、地域ごとの食文化をつくりあげてきた。その一方で、活発なプレート運動は数多くの地震や火山災害をもたらしてきた。世界一の地震・火山大国に暮らす我々は、災害はいつでも我が身に起こり得るものとして、命や暮らしを守るための備えをしておくことが大切だ」と述べ、参加者は熱心に聞き入りました。



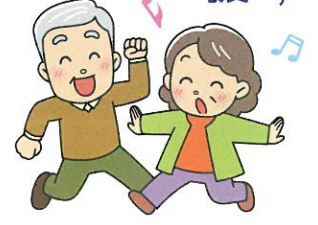
避難所受付設営訓練

「まちづくり大賞」を受賞した「コミュニティの皆さん」は、他の「コミュニティ」の発表に熱心に聞き入り、今後の活動のヒントを得ていました。

審査の結果、次の2団体が受賞しました。

「地域のチカラ」

「コミュニティの取り組み」



高い物や通院などの日常の移動に困っている高齢者が増加している中、「コミュニティ」による移動支援の取り組みが広がっています。

岡田「コミュニティ」では、火曜と金曜の週2回、予約を受けた利用者を地区内のスーパーマーケットや病院などへ送迎しています。予約受付や運転は地域のボランティアが担い、利用者はガソリン代などの実費を負担しています。月に1回程度、運転ボランティアを行って土居正信さんは、7月下旬の平日、2人の利用者を病院まで送り、「利用者の方に感謝してもらえることがうれしいし、励みになる。」と笑顔で話しました。

市内では、令和2年度までに城坤、川西、岡田、飯山南の4地区の「コミュニティ」で高齢者移動支援の取り組みを始め、令和3年度は新たに城北、垂水、飯山北の3地区が開始する予定です。

岡田地区の移動サービス「おでかけ便」



岡田地区の移動サービス「おでかけ便」

つながろう!! 自治会の輪

自治会加入率の低下に歯止めをかけようと、自治会へ勧誘する際の心構えや手順、加入しやすい自治会づくりの取り組みなどをまとめた「自治会加入促進マニュアル」を作成しました。

自治会加入率は全国的に低下していますが、大規模な災害が起こった地域では、自治会で力を合わせて危機を乗り切った事例が多く報告されています。安心して暮らせる地域づくりのため、自治会の輪を広げていきましょう。

マニュアルは自治会長に配布するとともに、ホームページでも公開しています。どうぞご利用ください。



3年度まちづくり大賞 受賞団体決定

「コミュニティ」の優れた取り組みに贈られる「まちづくり大賞」の選定委員会が7月20日、市民交流活動センター「マルタス」で開催されました。

今年度は市内6「コミュニティ」が応募し、それぞれのまちづくりの取り組みを紹介しました。

参加した「コミュニティ」の皆さんは、他の「コミュニティ」の発表に熱心に聞き入り、今後の活動のヒントを得ていました。

審査の結果、次の2団体が受賞しました。

「まちづくり」大賞

川西地区地域づくり推進協議会

「まちづくり」優秀賞

- 栗熊コミュニティ
- クリックマン見守り隊

公共私連携で輝く丸亀に



奥田 徹

平成28年から5年にわたり当会の副会長を務め、今年度の総会で退任された奥田 徹さん(垂水町)に、「コミュニティ活動の所感を寄せていただきました。」

振り返ってみて「功無きを恥ず！」の思いもありますが、この間、長きにわたって尊敬する皆さんと心を通わせて仕事できたことを誇りに思い、心から感謝しています。

早くから地域「コミュニティ」の活動が進められていた丸亀市では、「公民館」から新たな発展を目指して「コミュニティセンター」が設置され、さらに近年は、基幹組織である「コミュニティ協議会連合会」が結成され、地域づくりの重要な課題に真摯に取り組んでいます。

しかし、ここに来て世情は大きく変化していると思います。地球は人間が支配しているものと思いはなくなりましたが、それは驕りに

過ぎず、目に見えないウイルスや微生物の惑星だったことを思い知らされています。加えて、我々はコロナはもちろん、先日の熱海の大规模土石流のような自然災害リスク、失業、病気、事故などの経済・生活リスクなどに対応していかねばなりません。

江戸が「自治のまち」であったことはよく知られていますが、現在の「コミュニティ」、自治会なども、「住民の自治」と「リスクに共同対応」するために先達の知恵から生まれた組織だと思えます。

丸亀市は、お城をはじめとした多くの財産に恵まれたまちであり、全国でもピカッと輝く中核都市になれると思います。そのためにも、市と「コミュニティ」による「公・共・私」の緊密な連携を構築し、大きな変化に対応する新しい途を創造し、さらなる発展をしてほしいと願っています。